



姫路獨協大学
看護学部
海外研修報告書
2018



Tom Bradley International Terminal (LAX)



Santa Monica Pier



Santa Monica Pier



Santa Monica Pier



Breakfast at Embassy Suites by Hilton Arcadia



Embassy Suites by Hilton Arcadia Shuttle Van



Hope Drive at City of Hope



Greetings from Professor Matthew Loscalzo



With Ms. Natalie Schnaitmann



Guided Tour by Ms. Bridget Marshall



City of Hope's Golter Gate



City of Hope Museum



Helford Clinical Research Hospital



Discussion with Ms. Bonnie Freeman



Patient Education Teachback



With Ms. Dhruti Ramchandani



Child Life Services



Helford Clinical Research Hospital Tour Guided by Mr. Peter Hirsch



Lunch at Avila Gardens



Sunset Time at Embassy Suites by Hilton Arcadia



Westfield Santa Anita



黒江 伸さんと



Tom Bradley International Departures



Gate 135 Tom Bradley International Terminal



Gate 135 Tom Bradley International Terminal



Gate 135 Tom Bradley International Terminal

目次

1. 海外研修募集要項	16
2. 旅程と宿泊施設	18
3. 海外研修実施のための準備一覧	19
4. 看護学部第1回海外研修を引率して	20
5. 第1回目の看護学部海外研修を引率して	21
6. 参加学生による報告	22

海外研修募集要項

<研修目的>

- ①カリフォルニア州における医療・看護の状況を実体験することにより、日本における医療・看護の在り方を深く理解する力をつけるため。
- ②多様な文化的背景が異なる人たちを理解することにより、広い視野とグローバルな視点を持つため。
- ③学生自身が実体験を通して、自己の課題に気づき、今後の学習を促進させるため。

<実施期間>

2018 年 3/17 (土) 関西国際空港 (KIX) から出国

2018 年 3/25 (日) KIX へ帰国

※研修は 3/19 (月) から 3/23 (金) の 5 日間

<研修旅程>

※ロスアンゼルスとの時差は、日本時間マイナス 16 時間。デイトライトセービングタイム中

3/17 (土) 2:00 p.m. (集合) KIX 第 1 ターミナル 4 階

5:45 p.m. JL 060

3/17 (土) 11:50 a.m. ロスアンゼルス国際空港 (LAX) 到着後にバンでホテルへ移動

3/18 (日) 観光・研修準備日

3/19 (月) 9:00 a.m. - 5:00 p.m. City of Hope にて研修①

3/20 (火) 9:00 a.m. - 5:00 p.m. City of Hope にて研修②

3/21 (水) 9:00 a.m. - 5:00 p.m. City of Hope にて研修③

3/22 (木) 9:00 a.m. - 5:00 p.m. City of Hope にて研修④

3/23 (金) 9:00 a.m. - 5:00 p.m. City of Hope にて研修⑤

3/24 (土) バンでホテルから LAX へ移動

1:45 p.m. JL 069

3/25 (日) 6:15 p.m. KIX 第 1 ターミナル 1 階到着 (解散)

<研修施設>

City of Hope

1500 East Duarte Road, Duarte, California 91010 USA

Phone: +1-626-256-4673

<宿泊施設> ※ 1 部屋に 2 名

Embassy Suites by Hilton Arcadia Pasadena Area
211 East Huntington Drive, Arcadia, California 91006 USA
Phone: +1-626-445-8525

<対象学生>

看護学部 2 年生（暫定的に 2 年生を対象とし、将来的に他学年が対象となる可能性あり）

<参加定員>

6 名（過去の学内成績等を吟味し、試験・面接等の選考試験を実施する）

<引率教員>

C A（看護学部教授）

K A（看護学部教授）

<必要経費>

大学から研修費（1 名 5 日間 \$ 1,000）の補助がある。（この補助金額は将来的に変更の可能性あり）

<募集期間>

4/6（木）～5/12（金）

<申込方法>

別紙「看護学部 海外研修 参加申込書（参加承諾付）」に記入し、上記募集期間に本部棟 9 階事務室へ提出すること。

<決定通知>

参加学生の決定は、5 月末日頃までに掲示する。（本部棟 2 階学生掲示板）

<その他>

- ・必要経費の振り込み手続き等の詳細については、決定通知後に参加学生に対して連絡する。
- ・基本的に毎週 1 回集合し、研修準備を行うため、無断欠席は認められない。

旅程（時差：日本時間マイナス 16 時間）

3/17 (土) 5:45 p.m. (KIX 出発) JL060

3/18 (日) 観光

3/19 (月) 研修①

3/20 (火) 研修②

3/21 (水) 研修③

3/22 (木) 研修④

3/23 (金) 研修⑤

3/24 (土) 1:45 p.m. (LAX 出発)

3/25 (日) 6:15 p.m. (KIX 到着) JL069

宿泊施設

Embassy Suites by Hilton Arcadia Pasadena Area

211 East Huntington Drive, Arcadia, CA 91006 USA

TEL: +1-626-445-8525

FAX: +1-626-445-8548

海外研修実施計画

	学生	事務局	引率教員	海外研修委員会	教授会
4 月	申込、健診	旅行会社見積・決定	帰国報告、次年度説明会、参加受付	選考試験日時調整、学生へ連絡	
5 月	申込締切、選考試験				進捗状況報告
6 月	誓約書、旅券等申請		旅券、ホテル部屋割		選考結果報告
7 月	事前学習	旅費見積			
8 月	QFT 等感染症抗体価確認		QFT 等感染症抗体価確認		
9 月	事前学習		緊急連絡網、英文医療書類作成		
10 月	事前学習		英文医療書類作成		
11 月	事前学習		英文医療書類作成		
12 月	事前学習、旅費入金、ESTA	研修費送金	ESTA		
1 月	事前学習				
2 月	事前学習		次年度申込確認		
3 月	事前学習、渡航直前説明会		渡航直前説明会		

※渡航直前の 12 月末までに全ての準備を完了させること。獨協医科大学の COH 海外研修引率教員との連絡は重要。

看護学部第1回海外研修を引率して

C A

2018年3/17（土）から3/25（日）に第1回目となる海外研修を実施することができました。その1年前に現地で行った事前打ち合わせが実現したわけです。

第1回目実施のためには、学内の関係部署において了解を得てから、保護者会での概要説明、1期生学生対象の説明会、参加者の募集、筆記と面接による選考試験、および総合的な成績検討等がありました。参加学生の決定後には、約20回程度の勉強会を実施し、医学英語も含めて指導しました。渡航までに6名全員を積極的な学生にすることは難しいですが、元来目的意識が高い学生を対象としていたので、教育的指導にも効果が見られました。COHの現地担当者は、打合せ通りに看護に特化したプログラムを準備してくれました。

医学英語教育に関しては、1年次において必修30回、2年次選択15回、医学英語の用語分析が必修15回、そして英語Ⅳが選択15回あります。参加した6名の学生は、全てこれらの科目を履修していたので、一定の方向性を学生自身は自覚していたようです。英語運用能力増強のためには、その根底にある文化の理解に通じている必要性があるので、今思えば、文化や歴史的背景に時間をさらに割くべきでした。

今回の参加学生は、3年生直前段階であり、知識と臨床経験不足は否めませんでしたが、期待以上に前向きに学んでくれました。海外研修の実施時期に関しては、兵庫県内看護学部の海外研修を確認しましたが、3月のこの時期に2年生を派遣することが最も多く、次いで8月の夏休み中に実施している大学もありました。本学は完成年度であるため、海外研修を単位として認定することは現時点では不可能ですが、将来的には、国際看護学の一環として単位認定がなされ、研修期間が2週間に延長され、さらに学生の個人負担を軽減できる手立てが確立されれば、このプログラムは永年に渡って継続すると希望を抱いています。その前段階の準備が私自身の課題でもあります。

末尾となりましたが、看護学部海外研修第1回目を実施するにあたり、学長先生はじめ、学部長、看護学部全教員、および関係の事務部署には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

第1回目の看護学部海外研修を引率して

K A

City of Hope (COH) の研修担当者、講義担当者など、皆さんが暖かく、歓待の心がこもっていたので、学生、教員ともに病気や事故にあうこともなく、海外研修を問題もなく終えることができました。今回が初めての海外研修ということもあり、事前準備をかなりしていましたが、今後検討すべき課題も散見され、翌年度につなげる必要性を感じました。例えば、実施時期に関してです。3年生直前の2年生にとっては、医療的な知識・経験が絶対的に不足しており、現地での講義において、導入の段階はおぼろげながら理解できても、臨床的知識と経験を必要とする段階になると、学生の理解が追いつくことができなくなっていました。理想的には、実習が全て完了している時期ならば、相当の知識が身についているはずです。その観点から考慮すると、国家試験受験直後の学生ならば、かなりの知識と経験があることとなります。そのため、この時期こそ最適と考えられますが、開始時期は、COH の都合もあるため、今後の調整が必要となります。

初日のプログラムは、自己紹介、施設の案内、COH の理念や概要説明などでした。これは、COH 全体を理解するうえでとても役立ちました。2日目以降については、看護職の方が講師となり、懇切丁寧な講義をして頂けましたが、学生がまだ学習していない分野の内容もあり、高度な知識を必要とすることもあり、学生が理解するには時として困難なこともありました。参加した6名の学生は、渡航直前は、座学が多く、抽象概念を理解することが難しいように感じられました。この点に関しては、現代の学生が抽象概念理解を苦手とすると日本国内でも言われていることであり、本学学生の先ず苦手意識を克服できるように、今後指導が必要と感じました。一方で、明確な事例の提示や演習、視聴覚教材を利用した内容に対しては、学生の興味感心は強まり、内容の理解もある程度できているように感じました。

最終日には、現地看護師が、Helford Clinical Research Hospital 手術室の案内をしてくれました。最先端の医療機器や手術に関することについて、詳細に説明を頂きました。かなり、6名の学生は興味関心を示していました。患者さんと看護師がどのようにかかわっているかをさらに見学したいという要望が参加学生からありましたが、現地の患者さんの同意も必要なため、次年度以降の課題となりました。

末尾となりましたが、第1回目の看護学部海外研修を実施に向けて、学長先生、看護学部長、看護学部教員、そして縁の下の方の力持ちとなった実習課や経理課などの事務局に感謝申し上げます。

Volunteer Services at City of Hope

R I

私は、City Of Hope (COH) のボランティア活動に一番興味関心を持ちました。なぜなら、COH では、地域の方々のボランティアによって医療施設が運営されていることや、病院入口での患者とその家族に対する案内などが、中学生や高校生によるボランティア活動で成り立っているからです。ボランティアによって病院施設の日々の運営が支えられていることは、看護学学生としての私の経験に照らしても珍しいことであり、この点もカリフォルニアの病院と日本の病院との大きな違いであると考えました。

なかでも、そのボランティアによって創意工夫がなされ、患者さんの入院環境に強く介入していることが、最も印象に残っています。その理由は、疾患を抱えている患者さんは、暗くネガティブな感情に囚われやすくなることが多いのですが、そのような患者さんをポジティブに、入院生活をより快適に送るための入院環境改善が、日本国内の病院とはとてもかけ離れていると感じたからです。

COH には、日本と大きく異なり、様々な人種の患者さんが入院していました。そのため、アジア系の患者さんを配慮しての庭園、キリスト教信者の患者さんのための銅像、さらには、患者さんやその家族、そして医療従事者までもが落ち着けたり景色を楽しむことができる空間、体格が大きい患者さん用に少し大きい車椅子（かなり横幅が大きい）など、多種多様な患者さんとその家族、そして病院で勤務する医療従事者も過ごしやすい環境がつけられていることに心の底から驚きました。実際に COH の敷地内をガイドさん付きで説明を受けると、踏むと音楽が流れてくる装置や希望を示す黄金の扉（There is no profit in curing the body if, in the process, we destroy the soul.）さらには休憩ができるようにたくさんのベンチなどがたくさんあり、私は、患者さんにとってこの場所や空間が、癒しとなる居場所になっていると強く感じることができました。

日本では、患者さんと談話するための談話室などが設けられてはいますが、そこに配慮があるような調度品はまずなく、重苦しい今後の治療説明をさらに重苦しくしてしまっているのかもしれません。患者さんやその家族が、苦しい入院生活の中で、少しでも癒されると感じることができ、心を穏やかにできる場所や空間が、日本にはとても少ないのではないかと感じました。それに比較し、COH では病棟の外でも過ごしやすい環境があるという点が大きな違いと思えました。以上のことから、私は、こういった場所や施設がボランティアに依って支えられていることが、アメリカの病院の特徴のひとつであり、今後の日本の病院の在り方に変化が及ぼされるような気がしました。

What Is Health Literacy?

Y K

研修 3 日目、11:00 a.m. - 12:00 p.m. の Ramchandani 先生による、Patient Education Teachback はとても勉強になりました。誰かに何かを伝えても、10 人に 1 人が理解してくれないことがあるからです。医療現場でも同様のことが起きているそうです。そのため、医療従事者が何かを伝えなければならない際に、すべての患者さんが 100%理解できるようになってさえいけば、年間で 78 億ドル抑えることができるとのことでした。同様のことが日本国内でも起きているのかも気づかされました。

私たち 6 名は、白い紙を渡され目をつぶり、Ramchandani 先生の言われたように紙を折り、手で切りました。再び目を開けると、6 人中、先生と全く同じ形になっていたのはたった 1 人だけでした。このことにはかなり驚きました。同じ内容の指示を口頭で受けても、人によってここまで異なるからです。英語による指示でしたが、勘違いを考慮に入れたとしても。今回はとても単純な紙を折り切りするだけのことです。この作業のねらいは、人はそれぞれ言葉の概念がかなり異なることに気付くことでした。結果としては、各個人の理解度には大きな差があることです。ある患者さんの例が出されました。その患者さんは、医師から手術をすると言葉を話せなくなるという説明を受けました。その患者さんは、医師の説明に対して、"Yes"と即座に同意しました。実は、この患者さんは言葉を上手く聞き取れず、全く理解しないまま手術を受け、術後一生声を発することができない状態になるところだったそうです。別の例として、医師からの指示を守らなかったり、処方箋を紛失し、似て非なる薬を飲んだり、飲まなかったりする患者さんもいるそうです。そのような患者さんには、上から目線ではなく、「助けるように」接することが大切であるとのことを先生は強調されました。日本国内でも、飲み忘れた分を含めて 2 倍服用する患者さんもいるのが現実です。対応策としては、理解しやすく単語を選び、理解しているのかどうかを確認するために患者さんにフィードバックしてもらうことだそうです。加えて、以下のコツを紹介して頂きました。

- ・アイコンタクト
- ・分かりやすく平易な言葉を使う
- ・特に伝えたいところは強調する
- ・開かれた質問をする

患者さんひとりひとりに合った患者教育を行う際に必要なことを今回の海外研修で学ぶことができました。

Nursing Research and Education

M K

小児科看護師から、小児癌に関する講義を受けました。癌細胞は周囲血管を引き寄せ、その血管から栄養を奪って成長していく。癌には良性と悪性があり、何種類もあること。リスクファクターに関しては、性差や遺伝などの変えようのない要因もあるが、食事・運動によって回避可能な要因もあること。そして何よりも最大の癌の脅威は、免疫システムを破壊することであること。患者は、脆弱になるため、看護師はスタンダードプリコーション、特に手洗いを大切にする必要があること。癌治療には痛みが伴い、患者自身の外見に変化が訪れることもあり、このことにより精神的に追い込まれることもあること。治療方法には様々な選択肢があるが、放射線治療では皮膚に大きな影響があり、疲れやすくなること。化学療法により、頭髮が抜け落ち、吐き気や痛みなどの多くの副作用があること。そのような患者さんを少しでも減らすため、リスクファクターの中でも変化させることができる要因に特にアプローチし、加えて癌予防のための運動、野菜や果物の摂取、および低脂肪食品の摂取が良いとされていること。以上これらの内容は全て英語でしたが、悲観的に見ても、半分以上は理解したと自信が持てました。

Nurse Practitionerと聞いた時、理解できなかったのですが、緩和ケアにおいてどのように関わることか体験を交えながら業務内容を説明して頂きました。特に、Freeman 先生による講義では、なぜ緩和ケアナースになろうとしたのかのきっかけ、ナースプラクティショナーの業務、さらに緩和ケア看護師に対する心のケアについての詳細な説明を受けました。緩和ケア病棟における患者さんは、孤独感にさいなまれ、治療方法がないために最期を待つだけの状態になり、その家族も大きな苦しみを抱えてしまう。さらに、その対応看護師の精神的な重圧は想像以上のものになり得ること。人の最期の瞬間に立ち会うことには、かなりの抵抗があり、押し潰されそうになること。看護学生としても私はその準備ができていないと強く感じました。COH では看護師が燃え尽きないように、特に Nurse Practitioner が気を配り、看護師と一緒にいる時間を大切にして、しばしば話を聞くようにしているそうである。全て心の均衡を保つためとのことでした。病棟でのストレスをいかに解消し、翌日の業務に支障を来さないようにすることは大切なことと感じました。日本では深刻な看護師不足が叫ばれて久しいです。新人看護師を必要人数確保できても、離職率もそれなりに高く、結局看護師不足となっています。その一つの要因として、新人の頃のリアリティショックがあるのかもしれないと感じました。COH で行われている事を全てを日本で実施できるとは思えないですが、何らかの手立てを取り入れることで、看護師のケアを継続し、教育も充実されれば、組織としての発展があると看護学生ながら感じる事ができました。海外研修は、自分の視野が広がり、凝り固まっていた価値観を見直すことができました。

Tour of the Sheri & Les Biller Patient and Family Resource Center

C S

研修 2 日目、上記センターを見学しました。30 分程度のことでしたが、目新しいことばかりで大きな刺激になりました。項目として挙げると、

- ①患者さんやその家族が、だれでも自由に情報収集できるように、癌や放射線治療、さらに治療中の食事に関して様々な文献や資料をカテゴリー別に小冊子として置いてある。英語以外も。
- ②ネットに接続しているパソコンが複数台設置され、誰でも自由に情報収集ができるようになっている。
- ③同じ病状の人のためのコミュニティーやグループの紹介に対応されている。
- ④子ども教室が設置され、親が患者の場合において、親が受ける注射、点滴、薬の副作用などについて事前に分かりやすく専門職者が子どもに対して、丁寧にわかりやすく説明されている。
- ⑤周りの目を全く気にせず、泣くことができるスペースの配置されている。
- ⑥音楽療法やヨガなど COH で行っている治療法が実践されている。

なかでも、Trejo 先生による説明において、毎日通院しないといけない人の負担を軽減するために、COH 敷地内に仮設住宅が設置されていることには驚きました。さらに、Positive Image Center、当初何のことも理解できませんでしたが、抗がん剤治療の副作用で変わってしまった自分の姿に少しでも自信をもってもらうために、主に女性のための施設であり、美容院のようになっていました。ウィッグや化粧、害のない成分でつくられたマニキュア、宗教に合わせた衣装、帽子など、女性がおしゃれできる環境が整っていました。このことにより患者さんが積極的に（positively）なれることを意味していました。今思い返しても、COH では、日本との違いを一番感じられた時間だったように思う。病院だから今まで通りに生活することは困難だけど、少しでも、心身のケアをして快適な環境を提供したいという思いが強く伝わってきました。小さな子供がいる家庭には、専門スタッフによる楽しさを交えた説明により、親の病気を学ぶことで、子どもにとっても親にとっても少しでも負担が軽減され、さらに同じ病状でコミュニティーを作ることによって情報共有ができ、言いにくい話ができ、新たな考えや発見にたどりつくこともあるそうです。説明を受けるたびに、その情景が頭に浮かぶくらい、そこにいる患者さんやスタッフの方が生き活きて見えました。日本ではまだ取り入れにくいような音楽療法などを取り入れられているその根底には、アメリカにはたくさんの人種や宗教の人が住んでいることがあり、考え方感じ方が違う分、同じ空間で生活することが困難のように感じるが、そのことを逆に強みに変えた結果、様々なシステムの導入に繋がっているのではないかと強く感じました。日本ならではの日本看護の強みは何か、これからの講義や実習を通して考えていきたいと思いました。

Child Life Specialist

M N

海外研修で私が一番興味関心を持ったのは、チャイルドライフスペシャリストです。チャイルドライフスペシャリストとは、ストレスやトラウマ体験などの負の影響を軽減することで、心を安定させながら、評価、介入、教育、および予防など様々な働きかけを通して子ども達の健やかな成長と発達を促す方たちのことです。小児患者とその家族、または成人患者の子供が対象であり、病気、処置、および手術についての指導や説明、心の準備と精神的サポート、治癒的な遊びの提供、薬を伴わない痛みのコントロール、グリーフケアなどを行い、患者を支えていくことが役割です。また、小児患者には病気や処置についての説明をし、兄弟姉妹が入院する子供には日常性の提供、関係作り、遊びの提供を行っています。その中でもグリーフケアでは、大切な人との大切な思い出の枕やハートのペンダントを作ることで、さみしい思いを少しでも和らげるようにし、最期についての説明や兄弟を含む家族へのサポートをしています。

兄弟姉妹にはコーピングスキル向上や関わりの促進、入院する親を持つ子供には両親の病気に関する説明、集中治療室訪問前の準備、関わり方など、それぞれの対象者にあった方法で医療的な指導と説明を行うことも、チャイルドライフスペシャリストの主な役割だそうです。ファミリーセントードケアでは、患者と家族、合同チームメンバー（医師、チャイルドライフスタッフ、心理カウンセラー、看護師、通訳者など）が参加してファミリーカンファレンスを行い、手術の説明、精神的サポート、準備や学校との連携などを行っています。

私はこの授業を受けて、日本ではあまり聞くことのない仕事にとっても興味関心を持ちました。大人でも病気になるだけで不安や恐怖など様々な感情が押し寄せ、受け入れることもままならないのに、子供が病気を理解するということ、また、親が病気で入院することで、周囲の家族とは全く違う状況になり、不安と恐怖でたまらなくなることなど受け入れることが簡単にはできないと思います。チャイルドライフスペシャリストはそこに焦点を当て、対象者が満足できるような家族中心のケアを行い、心に寄り添うことを大切にしていました。ここまで患者とその家族に寄り添ったケアができる仕事が医療の現場にあることに共感を覚えました。

チャイルドライフスペシャリストの方たちはとても明るく、その場にいるだけで場の雰囲気明るくなり、周りにいる私たちも自然と笑顔になれるようなパワーを持った人たちばかりでした。そのパワーが対象者にとって心の拠り所となり、癒しとなり、元気を与えていっているのではないかと感じました。このような職業が日本にも広まっていけばと思います。

Child Life Services

MM

City of Hope (COH) でのプログラムにおいて、どのプログラムも素晴らしかったのですが、最も興味関心を持ったものは、Child Life Services についての演習講義です。この講義では、Child Life Specialists について学びました。この職種の業務内容は、小児患者、その家族・兄弟、成人患者の子どもに対して、疾患・治療・手術などについて説明し、さらに心理的なサポートを行うことなどがあります。この職種に興味を持ったのは、COH において、小児患者の兄弟や、成人患者の子どもにまでもケアをも行っていることに驚いたためです。日本においては、小児患者に対してはもちろん看護師によるケアは施されていますが、その兄弟や、成人患者の子どもなど、患者以外の子供へのケアについては介入することはほとんどなく、ほとんどは家族任せです。なかなか日本国内には根付きにくいことなのかもしれません。がしかし、COH では小児患者はもちろんのこと、患者以外の子どもに対してでもケアを行うための専門職が確立されていました。このように COH では、患者への援助ばかりではなく、その家族までも援助の対象としているのです。

このプログラムでは、子どもに対して行う教育・指導について実際に体験しました。具体的には、人形を用いた抗がん剤治療の説明や、ミニゲームでの子どもとの関係づくり、ストレスをかかえそうな子供に対する気晴らしなどを行っていました。子どもにとって病気になったということ、治療を受ける必要があることが自分、または家族に起こっているということは、口頭での説明ではとても理解し難いことです。また、実際に治療を受ける、または治療を受けている家族に面会するということは、子どもにとって受け入れがたい事実となる可能性もあり、将来的には精神的なトラウマになるかもしれません。しかし、専門知識のない家族にとって、それらを子どもが理解しやすいように説明することは容易なことではありません。そのために、Child Life Specialists は、子どもに対して、自分、または家族に対しての治療による、例えば侵襲的治療がなぜ必要であるのかなど、イメージしやすいように事前に人形やミニゲームを用いて説明するそうです。前述したように、日本においては、小児患者の兄弟や、成人患者の子どもなど、患者以外の子どもに対するケアはほとんどが家族任せであり、看護介入は患者だけに集中します。しかし、特に親が患者の場合のその子どもの精神状態は、医療従事者の予想を超えていることもあるそうです。親自身の治療状態を見ることでショックを受ける子どもの様子は、親である患者にとっても精神的ストレスの大きな要因となるそうです。その精神的ストレスを取り除くためにも、ケアの対象を患者のみに限定するのではなく、家族全体を対象とした看護の必要性を学ぶことができました。今後の実習では、COH での学びを活かし、患者の子どもに対する教育・指導までも視野を広げることを実践するべきであると感じました。

Himeji Dokkyo University Observership 2018 - City of Hope Campus	
Saturday, March 17, 2018	
Arrive at Embassy Suites, Arcadia	
Students:	1. Ms. RI 4. Ms. CS 2. Ms. YK 5. Ms. MN 3. Ms. MK 6. Ms. MM
Professors:	KA PA
Meet each day in the Lobby of Embassy Suites for shuttle bus to City of Hope.	
Day 1 - Monday, March 19, 2018	
Class Location - Needleman 1 - 9:00 am to 3:00 pm and Y-9 Conference Room 3:00 to 4:30 pm	
8:30 AM	Meet Embassy Suites Shuttle in front of hotel for travel to City of Hope
8:50 AM	Arrive at City of Hope - Meet BA, Patient Resource Coordinator at the front of City of Hope by the Spirit of Life Fountain
	Proceed to Needleman 1 Conference Room
9:00 - 9:30 AM	Welcome by ML, LCSW, Administrative Director, Department of Supportive Care Medicine
9:30 - 10:00 AM	Welcome and Ice Breaker with BA
10:00 - 11:00 AM	The Interdisciplinary Integrated Team: Department of Supportive Care Medicine, NS, Director of Operations, Department of Supportive Care Medicine confirmed
11:00 AM to 12:00 PM	Travel via campus shuttle to Campus Operations/FLASH Building - Take photos and obtain badges
	Travel back to Cafeteria via campus shuttle
12:00 - 12:45	Lunch - Tour of Campus Dining Options
	Proceed to the Spirit of Life Fountain
1:00 - 2:00 PM	Tour of City of Hope with BM, Visitor Services Associate
2:00 PM	Return to Needleman 1
2:00 - 2:30 PM	Defining Roles - Review the Department of the Department of Supportive Care Organizational Chart, BA
2:45 PM	Proceed to Y-9 Conference Room
3:00 - 4:00 PM	Pre-Test Evaluation Discussion, Preparing for Day 2 with BA
4:15 PM	Meet Embassy Suites Shuttle in front of Spirit of Life Fountain for travel to Embassy Suites Hotel

Day 2 - Tuesday, March 20, 2018	
Class Location: Building 51A - 10:00 am to 10:30 am and Needleman 1 - 11:00 am to 4:00 pm	
9 or 9:15 AM	Meet Embassy Suites Shuttle in front of hotel for travel to City of Hope
9:45 AM	Arrive at City of Hope, Meet BA by Spirit of Life Fountain - Proceed to Building 51 A
10:00 - 10:30 AM	Congratulations you Survived Day 1! Questions and Answers with BA
10:30 - 11:00 AM	Tour of the Sheri & Les Biller Patient and Family Resource Center, DT, Operations Manager
	Proceed to Needleman 1
11:00 AM - 12:00 PM	The Culture of Healthcare, ML, LCSW, Administrative Director, Department of Supportive Care Medicine
12:00 PM - 12:45 PM	Lunch
12:45 PM	Proceed to Needleman 1
1:00 - 2:00 PM	The Comprehensive Cancer Center: An Overview, JS, MS, RN, AOCNS, BMTCN Professional Practice Leader, Hematology/HCT
2:00 - 3:00 PM	An Introduction to Cancer, AW, MSN, RN, CPNP, CPHON, BMTCN Professional Practice Leader-Pediatrics
3:00 - 4:00 PM	An Introduction to Transplantation at City of Hope, JP, RN, MSN, OCN, BMTCN, WCC, Professional Practice Leader
4:15 PM	Meet Embassy Suites Shuttle in front of Spirit of Life Fountain for travel to Embassy Suites Hotel
4:45 PM	Meet Taxi at hotel for travel to Ralphs and to the L Residence
5:30 - 7:30 PM	Team building dinner at the home of ML. Guests will include members from the Department of Supportive Care Medicine

Day 3 - Wednesday, March 21, 2018	
Class Location: Graff Library - G104 Conf Room - 8:30 to 12 noon and Needleman 1 - 1:00 pm to 4:00 pm	
8:15 AM	Meet Embassy Suites Shuttle in front of hotel for travel to City of Hope
8:50 AM	Arrive at City of Hope - Proceed to Graff Library - G104
9:00 - 10:00 AM	The "CARES" Tool: A Discussion with BF, Nurse Practitioner, Supportive Medicine
10:00 AM - 11:00	The Role of the Patient Navigator, LG, Lead Patient Navigator
11:00 AM - 12:00 PM	Patient Education Teachback, DR, DR, MPH, MCHES, Senior Health Education Specialist
12:00 - 12:45 PM	Lunch
12:45 PM	Proceed to Needleman 1
1:00 - 2:00 PM	A Personal Journey Through the Dying Process, Rev Dr. T, D.Min., PCC
2:00 - 3:00 PM	Couples Coping Together with Cancer Program, EP, LCSW, and KR, LCSW, Clinical Social Work
3:15 PM	Meet Embassy Suites Shuttle in front of Spirit of Life Fountain for travel to Embassy Suites Hotel

Day 4 - Thursday, March 22, 2018	
Class Location: Needleman 1 Conf Room, 9:00 pm to 12:00 pm and Y9 Conf Room, 1:00 pm to 5:00 pm	
9 or 9:15 AM	Meet Embassy Suites Shuttle in front of hotel for travel to City of Hope
9:45 AM	Proceed to Needleman 1
10:00 - 11:00 AM	Childhood Cancer Survivorship Program, KW, RN MSN FNP-C CPON, Center for Cancer Survivorship, Department of Population Sciences
11:00 - 12:00 PM	Introduction to Volunteer Services, Nicole Boutros, Volunteer Coordinator, Division of Volunteer Services
12:00 - 12:45 PM	Lunch
12:45 PM	Proceed to Y-9 Conference Room
1:00 - 2:00 PM	The Role of the Cancer Information Resource Nurse, KK RN, BSN, OCN
2:00 - 3:00 PM	Child Life Services, JAN, Manager; MT, TY, Child Life Educators
3:00 - 4:00 PM	The Role of the Nurse Practitioner within the Supportive Medicine Team, OJ, NP, ACNP, APRN, Nurse Practitioner, Division of Supportive Medicine
4:00 - 5:00 PM	ICU Family Meeting Program - SM, MD, Supportive Medicine, and MO, LCSW, OSW-C, ACHP-SW, Family Meeting Program Coordinator

Day 5 - Friday, March 23, 2018	
Class Location: Y9 Conference Room - 10:00 am to 12:00	
6:50 AM	Meet Embassy Suites Shuttle in front of hotel for travel to City of Hope
7:20 AM	Arrive at City of Hope Proceed to Helford Hospital - 2nd Floor
7:30 - 9:00 AM	Tour of the Helford Hospital Surgical Setting with PH, RN, Clinical Educator
9:00 - 9:45 AM	City of Hope Souvenir/Gift Shop - (BA, PA and KA to meet with ML)
	Proceed to Y-9 Conference Room
10:00 - 10:45 AM	Reflections of the Observership Experience, program evaluation and final debriefing - BA with Students
10:45 - 11:15 AM	Proceed to Kaplan Building for Group Photo
11:15 AM	Proceed to Spirit of Life Fountain to meet taxi for travel to Avila Gardens
11:45 - 2:15 PM	Avila Gardens 1171 Encanto Parkway, Duarte, CA 91010
	Welcome with Sister CT, Avila Gardens, Lunch with Active Seniors, Bingo and Site Visit
2:30 PM	Experiencing American Cuisine -Off Campus Early Dinner - Meet Taxi in Front of Avila Gardens for Travel to off campus early dinner
3:00 PM	Arrive at In n Out Location, meet BA
4:00 PM	Meet taxi at IN-N-OUT for travel to Westfield Santa Anita